

# はすだね通信 第60号

みんなで進めよう  
茨城農業改革

土浦地域農業改良普及センター

平成30年4月25日発行

## アブラムシの発生状況と早期防除について

普及センターでは、春先から初夏にかけてのアブラムシ(クワイクビレアブラムシ)の発生状況(飛来数)調査を行っています。昨年までの調査によれば、平年の飛来数のピークは5月中～下旬となっています。

本年はレンコン田へのアブラムシの飛来が例年よりも早く始まっており、**4月20日時点で既に平年のピーク時と同等数の飛来が確認されています**。防除時期が遅れると、多発生を招く恐れもありますので、早めの防除を実施しましょう！

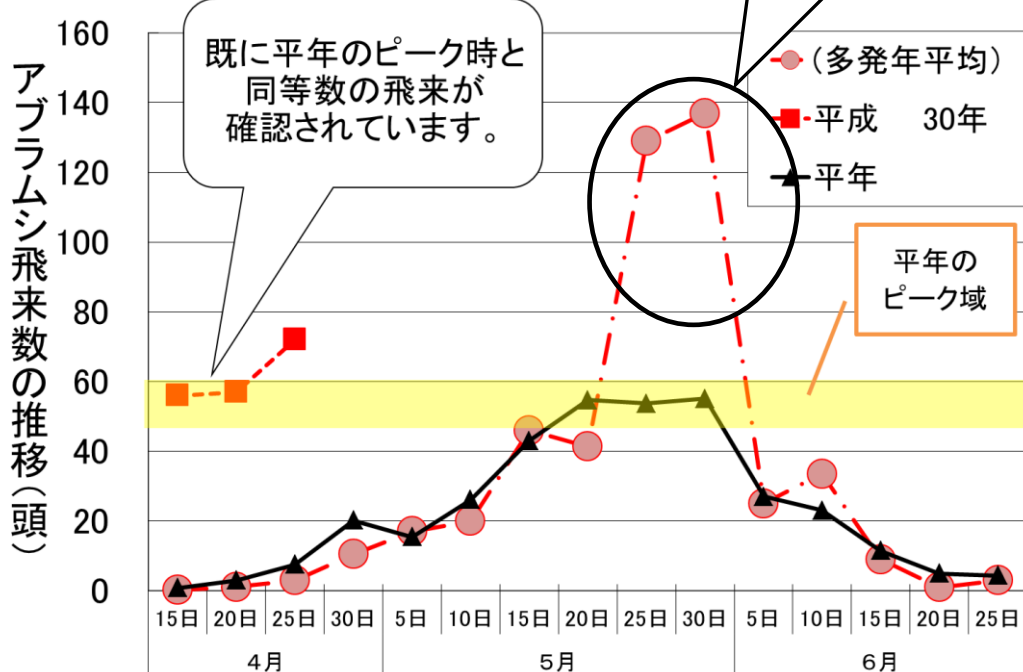


アブラムシは卵で越冬し、春先に羽の生えた成虫(有翅虫)となってほ場に飛来します。有翅虫はレンコンの葉に寄生し、羽の無いタイプとなって増殖します。普及センターでは有翅虫の飛来数を調査しています。



アブラムシ(クワイクビレアブラムシ)は、ハス条斑病ウイルスを媒介するとされています。条斑病に感染したハスは、ウイルスが全身に回り、肥大茎の表皮の下に筋が入ってしまいます。このようなレンコンは、販売できず、種バスにも使用できません。

### アブラムシの発生状況



アブラムシの飛来数の増加は、気温が高い年ほど早くなる傾向があります。また、高温、少雨等の気象条件が続くと、飛来数は大幅に増加する傾向があります。多発生の際は平均気温が高く、降雨も少なく推移したため、飛来数が著しく増加しました(右図)。

平成30年は、高い平均気温と降雨の少ない天候に由来して、**4月20日時点で平年のピーク時と同等の飛来数が確認されています**。気象庁の季節予報によると、5月の気温は平年並かやや高いと予想されています。粒剤を使用する場合は、**散布してから効果の発現に1～2週間程度要する**ため、計画的な薬剤散布を行いましょう。

農薬を使用する方は、必ず、使用する前にラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。また、農薬散布の際は、周辺作物等への飛散(ドリフト)に十分注意して下さい。

環境にやさしい農業のため、水のかけ流しはやめましょう!!!